

ペイブメントMRの施工要領

1. 補修箇所の下地処理

- ・あらゆる補修材にとって、下地処理は非常に重要です！
- ・補修箇所を長持ちさせるために、きれいな灰色のコンクリートが表面に現れるように入念に下地処理しましょう。
- ・また、補修する前に、損傷の原因を調査し、それを踏まえて補修計画を立てましょう。
(根本的な損傷原因を取り除かないと、どんな補修材で補修しても、すぐに再補修が必要となる場合があります。)

1. 補修箇所の外縁に、コンクリートカッターで2～5cm程度の深さの切込みを入れる。

(明らかに損傷を受けている(凹んでいる)範囲よりも5cm程度ずつ外側に切り込みを入れて、大きめにはつりましょう)



2. はつり機やノミ・金槌で脆弱部をはつり取る。

(なるべく下図の「良い例」に近づくようにし12mm以上の厚さを確保してください。)



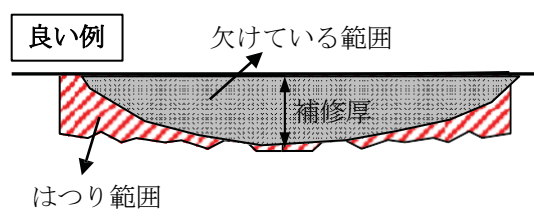
3. 塗料、塗り床剤、油等は完全に除去する
(ペイブメントは樹脂系材料には付着しません)

4. きれいな灰色のコンクリートが表面に現れるように泥や埃をワイヤーブラシ・バキューム等で清掃する



5. 補修箇所に水が浮いている場合は取り除く
(乾燥しているのが最も望ましいが、湿っていてもOK)

6. 最後に補修箇所を打音検査し、脆弱部がないか確認する (補修箇所全面を金槌でたたいてキーンという高い音がすればOK)



補修箇所の断面図

補修厚は最低12mm以上確保してください



株式会社 シー・ティー・ジャパン
〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-9 YKホープ芝大門 5階
TEL:03-6435-7787 FAX:03-6435-7807
URL:<http://www.ceratechjapan.com/>

2. 練混ぜ準備



プルタブ周囲に切込み



プラスチック帯を取り除く



オープナーで開封



10秒ほど空練り

(20kg入り缶はオープナー不要)

- 缶を開封する前に、数回転がして中身をほぐす。
- 開封
(20kg缶はカッターで蓋のプルタブを切り、プラスチックの帯を引っ張って取り除いてから開封)
- 右の写真の推奨練混ぜパドルを電動ドリルに取り付ける。
(電動ドリルは「7アンペア以上 & 500~850回転/分程度」の**低速高トルク型**(例えばマキタDP4002、日立工機D13VF)を推奨。非力なドリルを使用すると、練混中にモーターが焼き切れる場合があります)
- 水を加える前に、材料を空練り(からねり)し、ダマがある場合は完全に潰しておく。
- 空練りした材料の温度をサーマルガン等
(赤外線放射温度計)で計測する。
- 材料温度に応じて、練混ぜ水の温度を調節すること
粉体の温度 + 練混ぜ水の水温 = 35~40°C



空練りし易い推奨パドル



7.5アンペア
0~600回転/分(無断変速)

マキタ DP4002

例) 粉体の温度 → 練混ぜ水の水温の目安

5°C → 30~35°C

30°C → 5~10°C

夏は氷を、冬はぬるま湯か電熱器を用意



夏は氷を用意



冬はぬるま湯か電熱器を用意

- 練混ぜパドル清掃用の水(洗い水)を入れたバケツも用意しておく。



株式会社 シー・ティー・ジャパン
〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-9 YKホープ芝大門 5階
TEL: 03-6435-7787 FAX: 03-6435-7807
URL: <http://www.ceratechjapan.com/>

3. 練混ぜ

1. 缶の大きさに応じて、水の量を**正確に**計量する。
(パイブmendMRの強度発現は水の量に比較的敏感です。)

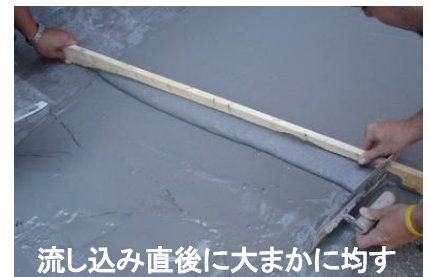
商品ラインナップ	練混ぜ水量	練上り量
20kg入り缶	: 1.90 ℓ	→ 約 9.6ℓ (0.0096m ³)

2. 水を加えたらすぐに練混ぜ開始
スクリー羽根タイプのカクハン機を使用する場合は、先に水を入れて攪拌しながらパイブmendの粉体を入れていくと練り残し無く練り混ぜることができます。
3. 最初の30秒で材料と水が均一に混ざるように、パドルを高速回転で上下に大きく動かしながら大きく回す。
その後は**低速回転**(100~300回転/分)で、**過剰に空気を巻き込まないように練り混ぜる**。
4. **2分間**練混ぜ(最低2分間かつ練上り温度が20℃以上になるまで練り混ぜてください。)
5. 練混ぜ完了後、練混ぜパドルはすぐに水で清掃する。
☆専用パドルでの練混ぜの他に、手練りやパン型強制練りミキサー(モルタルミキサー)での練混ぜも可能です。



4. 打設・仕上げ

1. 打設箇所の水打ちは必要無し
2. 練混ぜ完了後、すぐに打設(約2~5分で硬化します。)
3. 流し込み後すぐに定規・角材・コテで均して、
大まかな仕上げ面を作り、その後コテで仕上げ
4. 仕上げでは**絶対に水を加えない**。



注意点

- ・補修厚が大きな箇所の補修の場合、パイブmendは自己接着性がありますので、打ち重ねできます。しかし、補修箇所をより長持ちさせるためには、一番上の層の厚さが25mm以上になるようにしてください。
- ・広く浅い範囲を補修する場合は、算木等で補修箇所を区切り、1区画ずつ一気に打設してください。



5. 養生

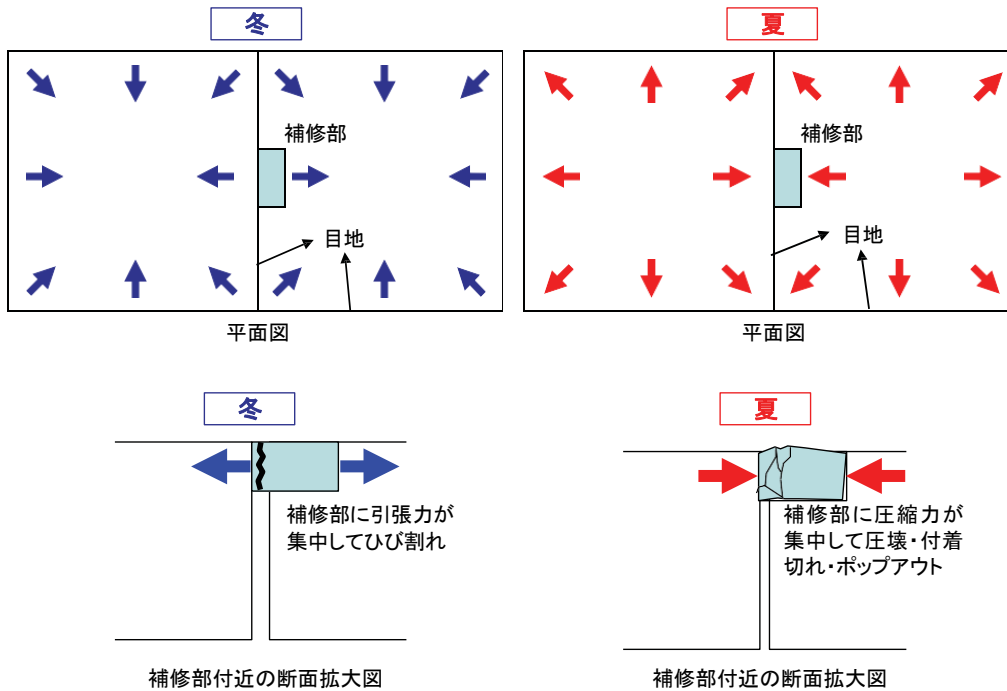
1. 流し込んだ後、特別な養生は不要。ただし、供用開始可能時間までは、雨等の水がかからないようにして下さい。
2. 供用再開時間

気温	20℃	:	1時間
気温	10℃	:	1.5時間
気温	5℃	:	2時間



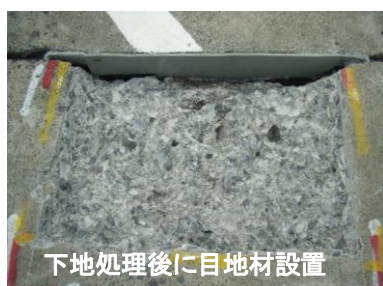
株式会社 シー・ティー・ジャパン
〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-9 YKホープ芝大門 5階
TEL:03-6435-7787 FAX:03-6435-7807
URL:<http://www.ceratechjapan.com/>

6. 目地部の補修での注意点



- ・目地部に接した箇所の補修では、昼と夜、夏と冬で温度差が生じることによってコンクリートが伸縮し、目地が開閉することに注意してください。
- ・長さ5mのコンクリートは温度差20℃につき1mmずつ伸び縮みしますので、補修箇所が目地の動きを邪魔してしまうと、補修箇所に非常に大きな力がかかり、損傷を受けます。
- ・目地部に接した箇所の補修では、予め目地材を入れておくか、流し込み後1～3時間以内にコンクリートカッターで切り込みを入れるなどして、目地を再構築してください。

予め目地材を入れておく方法



硬化後に目地を再構築する方法



株式会社 シー・ティー・ジャパン
 〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-9 YKホープ芝大門 5階
 TEL:03-6435-7787 FAX:03-6435-7807
 URL:<http://www.ceratechjapan.com/>